

夏休みの思い出、磯遊び

22人のこぶ島アドベンチャー

桜野アンビシャス広場の子どもたち22人が8月7日、志摩野北の沖合に浮かぶこぶ島にアドベンチャーに出かけました。

こぶ島は、海に浮かぶ岩礁。糸島半島を海から望み、ひととき美しい水の中には、いろんな生き物が動くのが見えます。

子どもたちは島に着くなり、海に入り、磯遊びに夢中です。泳いだり、潮だまりの魚を捕まえようとする子どもなど、楽しさいっぱいのアドベンチャーとなりました。



「何か、おる」「あつ、魚」「捕まえよう」……磯遊びに夢中です

食を通して糸島を知ろう

糸島さんの食まつり

家族で「食」を体験し、楽しみながら食育や地産地消のたいせつさを体感しよう……8月7日、市内4会場で「糸島さんの食まつり」を開催し、いろんな「食」体験を行いました。

この日は、志摩吉田での夏野菜の収穫体験や二丈福ふくの里での「糸島カレー」作り、怡土公民館での旬菜クッキングなどを実施。

ファームパークでは、ペットボトルのいかだ作りやウナギのつかみ捕りなどのイベントも開催され、楽しい「食」体験となりました。



背丈より高いオクラのジャングルで収穫体験(志摩吉田)

水素の最新研究が紹介

福岡水素エネルギー戦略会議

水素エネルギー製品研究試験センターで8月10日、公開セミナーが開催され、大学関係者やエンジニアなどおよそ90人が参加。

この日は、音波で水素濃度を測るセンサーや、閉ざされた空間での水素の拡散、燃料電池自動車の安全性確保のための実験など、水素をめぐる最新研究が紹介されました。

将来、最も有効なエネルギーとして認知されている水素。それだけに参加者たちは真剣に聞き、盛んに質問が飛び出していました。



動画を使った、水素車両の火災実験なども紹介されました

糸島地区 小中学生将棋大会

子どもたちの熱い対局で盛り上がる

糸島市立南風公民館では、8月7日、第14回糸島地区小・中学生将棋大会が開催され、熱い対局が繰り広げられました。

今回の大会には、日本将棋連盟からプロ棋士の稲葉陽四段も参加。稲葉プロは「負けたら泣くことも大事。もし今日の試合で負けたら、しっかりと泣いて次に生かしてほしい」と語っていました。

対局が始まると、子どもたちは真剣なまなざしで、一手一手を打っていました。



先を読みながら、慎重に一手を打つ子どもたち

蔓で綱つた綱を引き合う

二丈大人の盆(かずらの)綱引き

蔓の綱を引く伝統の盆綱引きが8月15日、二丈大人の白山神社で行われ、綱作りから地域のみなさんが参加して賑わいました。

この綱引きは毎年お盆に開催。早朝から山で蔓を集め、みんなで協力しながら綱を編みます。今年の綱は36mを超えました。

15時ごろ、この綱で3本勝負の綱引きが開始。3本目の勝負で綱は真ん中から切られます。綱引きが終わると、切られた綱で砂浜に土俵が作られ、子ども相撲が行われました。



青々とした蔓の綱を、大人と子どもで引き合いました

暑さに負けず、そうめん流し

箸や器は子どもたちで自作

糸島市人権センターでは、8月18日、市内の小中学生を対象に「そうめん流し」が行われ、親子で約30人が参加しました。

午前中は自分たちが使う容器や箸を作るため、竹を切ったり削ったりするなど工作を満喫。お昼になり、そうめん流しが始まると、子どもたちは、楽しそうに食べていました。

中には「自分で作った箸は食べにくい」と言い、周りの笑いを誘う子どももあり、会場は暑さも吹き飛ばす笑顔で包まれました。



自分たちで作った箸や器で食べるそうめんは格別の味